

青鵠課題研究プレ「基礎理科実験」レポート評価基準表（相互評価用）

佐賀県立致遠館高等学校普通科（令和5年度 ver1.0）

項目	評価基準	相互評価①	相互評価②	相互評価③
レポートの書式	指定された書式（ひな形を使ってA4 2枚）でレポートを書いている。			
	作成者・共同実験者の氏名を誤字なく正しく書いている。			
	作成者・共同実験者の年・組・番号を4桁の数字で正しく書いている。 （例：1年5組9号なら「1509」）			
目的	何を明らかにしようとしているのかを明確に書いている。			
理論・定義	実験・考察に必要な予備知識（研究の前提となる用語の定義やしくみの模式図など）を第三者にも分かるように明確に書いている。			
実験器具、試薬等	ここに記述している器具や薬品等を用いて実験すると、同じ実験結果が再現できるように書いている。			
実験操作	文章と写真や図を適切に組み合わせて、どのような方法で実験したのかが第三者にも分かるように明確に書いている。			
実験結果	実験結果を表・グラフにまとめ、表・グラフが示す事実を文章で書いている。			
	グラフの横軸と縦軸の要素・単位をそれぞれ書いている。表の上に「表1」やグラフの下に「図1」等のキャプチャとそのタイトルを書いている。			
	グラフに、箱ひげ図や近似直線・近似曲線を描いて、グラフの傾向をより正確に表している。			
考察	実験結果のオウム返しではなく、「なぜそうなったのか」について科学的な根拠や理論を付け加え、自ら導き出した論述を書いている。			
	表・グラフのデータに基づいた考察を書いている。（思いつきや願望による突飛なことを書いていない。）			
まとめ	「目的」と一致したまとめを書いている。（「目的」に記述していないことを、さも実験の成果であるかのように書いていない。）			
	何を明らかにしたかが分かるように、論理的にプレずに、分かりやすい文章でまとめている。			
展望	単なる希望や期待ではなく、実験結果と考察に基づいて「これから何を明らかにしたいのか」を書いている。			
	「新たな仮説」や「条件を変えたときの予想」または「仮説・予想を証明するための実験方法」を踏まえた仮説を書いている。			
参考文献	参考にした文献やWebサイトを以下のように書いている。 ・文献『著者氏名(発行年)、「書名や論文のタイトル」.出版社や雑誌名,号数,ページ』 ・サイト『作成者(公開年).Webページのタイトル,URL,自分がアクセスした年月日』			

「○」の数の合計⇒

/16	/16	/16
-----	-----	-----

- 各項目の評価基準を満たしていれば「○」を記入。満たしていなければ「×」を記入。
- 相互評価で「×」が見られた項目を「○」に修正できるように実験レポートをリライトすること。
- 実験レポート（リライト）を指定のフォルダに提出したら、この用紙をメンターの先生へ提出すること。

	分野	年・組・番号		作成者氏名	
【相互評価①】		年・組・番号		評価者氏名	
【相互評価②】		年・組・番号		評価者氏名	
【相互評価③】		年・組・番号		評価者氏名	